

山を越える

9月1日は上越線の全通記念日。春に書斎の整理をしていて、市議会議員時代に時折発行していた議員報『シゲがゆく』の綴りを発見。議員になりたての平成22年、昭和6年の上越線全通から80年にあたるこの日に記念式典が催されたことをコラムに書いていました。『今年、その敷設実現に生涯を捧げた岡村貢の顕彰碑が建設され、9月1日、序幕と記念祝賀会が石打駅に建つ翁の銅像の前で盛大に行われました。私財の全てを事業に投げ打ち「山岳重畳たる山を突破することは船を山に引き上げるようなもの」と誰もが笑い、信じえなかった大仕事に不屈の精神で敢然と立ち向かった生き方。思い感じること大。魚沼人の誇りだなあ』『六日町の学校に電車で通っていた高校生時代、生意気盛りだった自分が、この翁の銅像にだけは朝夕の目札を欠かすことはなかった、という恥ずかしい話を祝賀会に臨席された翁の末裔にあたる方にしてしまった。「故郷

のために頑張ってください」翁と似ておられる彫りの深いお顔をくずして微笑まれたら、得もいわれぬ不思議な気持ちに。爪のあかでも…の思い』8年前の私は感慨を持って書いたのだと思いますが、今は立場も改まり、少し思いが違う。間もなく90年。もし、翁の情熱と行動がなければ、今の南魚沼はあったか。「そうだ」と思いつき、NHK新潟放送局を訪ねました。局長に「岡村貢を知っていますか？」と。評伝や文献資料を持ち込み、「埋もれさせてはいけない。今こそ再顕彰の好機。ぜひ取り上げていただけないか」少なからず関心を示された氏に期待したい。先日、すばらしい贈り物が届きました。鬼気迫る表情で演説を打つ、故田中角栄氏の署名入りの写真額。謙信公の詩文の一節、田中氏の雅号や後援会名としても知られる「越山」、まさに山を越えていく気概。田中氏が「最も尊敬する郷土の先達」と翁を語っていたという話も思い出しました。志、悲願の系譜。私たちは何をすべきか。

国際大学留学生 お国自慢コーナー ～ boast of my country ～

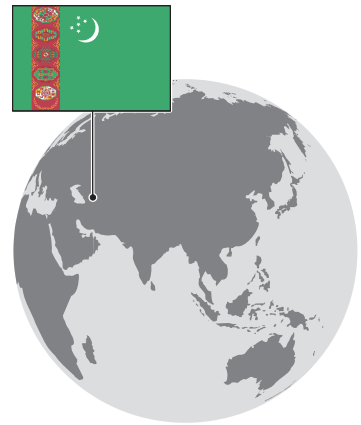
シリーズ 第65回

トルクメニスタン レイリ ドゥールディエヴァ さん



私の国はこんなところ

トルクメニスタンは、カスピ海の東海岸に位置する中央アジアの国です。パルティア王国とバクトリア王国の古代文明のオアシス都市として知られ、自然景観や歴史的建造物など数々の観光地があります。カラクム砂漠中央部のガス・クレーターのダルヴァサ、恐竜の足跡の化石が有名なクギタング山脈がおすすめです。料理は、プロフ（ピラフ）、ドルマ（葡萄の葉で野菜や肉を包んだ料理）などがあり、夏には特産品のベリーやメロンが採れます。黄金の馬「アハルテケ」も有名です。お土産にはトルクメン絨毯はいかがでしょうか。



南魚沼市に住んで感じたこと

南魚沼に到着した日は雨で、街は静かでした。緑の丘やよく整った田んぼに感動したのを覚えています。この穏やかな地は、自然の中でリラックスして過ごしたい人には最高です。雪のある冬、着物の試着、地域の高校生との田植えなど、この一年でたくさんの経験をしました。学園祭での特別イベント「国際握飯祭」では、おにぎりの作り方を学びました。次の一年ではどんな発見があるか、楽しみです。

トルクメニスタン

- [公用語] トルクメン語、ロシア語
- [首都] アシガバート
- [面積] 488,100km<sup>2</sup> (51位)
- [人口] 5,200,000人 (?位)
- [GDP(PPP)] 734億ドル (87位)
- [通貨] トルクメニスタン・マナト (TMM)

※GDPは国内総生産のことで、購買力平価説 (PPP) により算出した数値です